



## 三ツ矢サイダー発祥の地から脱炭素社会の実現に貢献！ 能勢電鉄3駅に「CO<sub>2</sub>を食べる自販機」を設置

能勢電鉄株式会社（本社：兵庫県川西市、社長：西中哲郎）は、脱炭素社会の実現に向けた取り組みとして、2026年5月より能勢電鉄日生中央駅ほか計3駅にアサヒ飲料株式会社が展開する「CO<sub>2</sub>を食べる自販機」を順次設置します。

本取り組みにより、設置した自動販売機が大気中のCO<sub>2</sub>を吸収し、吸収したCO<sub>2</sub>をアスファルトやコンクリートなどの工業原料に活用することで、脱炭素社会の実現を目指します。

多くのお客様が利用される公共空間である駅に設置することで、日常生活の中で環境に意識を向ける機会を提供するとともに、脱炭素社会実現に向けた取り組みに尽力してまいります。

また、能勢電鉄平野駅のある川西市平野は三ツ矢サイダー発祥の地で、過去には能勢電鉄の輸送を支えた歴史があります。その三ツ矢サイダーゆかりの地である三ツ矢記念館（川西市平野）のデザインをラッピングした自動販売機を設置することで、地域の歴史的背景と親和性の高い三ツ矢サイダーを通した、地域の魅力発信にも寄与いたします。

### ■ 「CO<sub>2</sub>を食べる自販機」の設置駅

能勢電鉄 多田駅、山下駅、日生中央駅



「CO<sub>2</sub>を食べる自販機」基本機



能勢電鉄線へ設置する

「三ツ矢記念館」をデザインしたラッピング機

※上記設置駅のほか、2025年4月より平野駅にも設置しています。

■参考：「CO<sub>2</sub>を食べる自販機」を活用したCO<sub>2</sub>資源循環について

【CO<sub>2</sub>の吸収】

CO<sub>2</sub>吸収性能として、1台当たりのCO<sub>2</sub>年間吸収量は稼働電力由来のCO<sub>2</sub>排出量の最大20%を見込んでおり、スギ（林齢56-60年）に置き換えると約20本分の年間吸収量に相当します。

「CO<sub>2</sub>を食べる自販機」は、現在関東・関西エリアを中心に、CO<sub>2</sub>濃度が高いとされる屋内など様々な場所に設置されており、2026年3月末時点で6,000台を突破しています。

脱炭素社会の実現に貢献する国内初の取組みであり、大気中のCO<sub>2</sub>の吸収を可能にした自動販売機は、アサヒ飲料株式会社が特許（特許第7282338号）を取得済みです。

【吸収したCO<sub>2</sub>の活用】

自動販売機から吸収したCO<sub>2</sub>は、取組みに賛同する各自治体や企業と共創しながら、様々な工業原料として活用されています。アスファルトやコンクリートの原料に配合し、CO<sub>2</sub>の固定化や海中での藻場造成などに活用することで、ブルーカーボン生態系(※)の再生を図ることも進めています。

CO<sub>2</sub>資源循環モデルの取組みは、アサヒ飲料株式会社が将来世代にワクワクと笑顔をつなげていくための活動「100YEARS GIFT（100年ギフト）」の一環です。自動販売機を通じた環境負荷低減に貢献する取組みによって、脱炭素社会の実現を目指していきます。

アサヒグループでは、グループ理念“Asahi Group Philosophy”の行動指針の一つとして「事業を通じた持続可能な社会への貢献」を掲げています。サステナビリティの重点テーマの一つである「気候変動への対応」においては、GHG排出量削減の中長期目標「アサヒカーボンゼロ」を設定し、2040年までにGHG排出量をネットゼロとすることを目指しています。

※「海洋生態系に蓄積される炭素」のこと。また、そうした作用を有する生態。

以上

この件に関するお客様からのお問い合わせは

能勢電鉄株式会社 鉄道事業部 営業担当

TEL：072-792-7716 FAX：072-792-7730

(平日 9:30~17:00)

【ニュースリリース配布先】 青灯クラブ、近畿電鉄記者クラブ、川西市政記者クラブ  
豊中記者クラブ、関西レジャー記者クラブ

この件に関する報道機関からのお問い合わせは

能勢電鉄株式会社 総務部 広報担当

TEL：072-792-7200 FAX：072-792-7760

(平日 9:30~17:00)